

機関名：農林水産省

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	<p>【水質保全対策事業】 ○水質保全施設整備 水資源の総合的な保全に資することを目的とし、農業用排水施設から公共用水域へ排出される排水の水質浄化を図り、農村地域の環境保全及び農業利水に適切に対処するとともに、農地（休耕田）や水生生物の有する自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を実施します。 ○耕土流出防止施設整備 侵食を受けやすい特殊土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止し、農村地域の環境保全に資することを目的として、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護、土層改良、暗渠排水、既存施設の軽微な変更等を実施します。</p>	<p>○水質保全施設整備 海域の環境保全のために、農業用排水施設内の水質浄化を図る必要がある際には、自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を図る。</p> <p>○耕土流出防止施設整備 農用地及びその周辺の土壌の流出を防止するため、農地等の発生源対策として承水路、沈砂池等の整備や、勾配抑制、グリーンベルト等の植生保護を、平成30年度は沖縄県で17地区、鹿児島県で3地区実施している。 今後とも、農用地及びその周辺の土壌の流出低減に向け、関係自治体や営農者と連携して営農での取組とともに本事業を推進していく。</p>
2	<p>【多面的機能支払交付金（うち資源向上支払）】 地域住民を含む組織が取り組む水路、農道等の軽微な補修や植栽による景観形成など農村環境の良好な保全を始めとする地域資源の質的湖上を図る共同活動、施設の長寿化のための活動を支援します。このうち耕土流出対策としては、グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組等を支援します。</p>	<p>平成29年度は、耕土流出防止対策として、グリーンベルトの設置や沈砂池の適正管理等の取組を、鹿児島県の4市町16組織及び沖縄県の16市町村26組織において実施した。 今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に向けた取組を支援してまいりたい。</p>
3	<p>【農業集落排水事業】 生活排水等による水産動植物の生育環境の悪化に対しては、集落排水施設などの整備を通じた陸上からの水質負荷低減に取り組みます。</p>	<p>陸域に由来する栄養塩等への対策を推進するため、農業集落排水事業の実施により、農業集落排水施設の未整備地域の整備を促進するとともに、老朽化施設の更新整備や高度処理の導入の促進について、関係機関の連携のもと推進しているところ。 農業集落排水施設は、平成29年度までに全国で約5,000施設が供用されており、平成29年度は全国約220箇所で開催を実施した。 陸上からの水質負荷低減に向け、今後とも農業集落排水施設の普及、更新整備及び高度処理の導入について、関係自治体と連携して推進する。</p>
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1	<p>【地域主体のサンゴ礁保全対策の支援】 ○水産多面的機能発揮対策事業 漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援します。</p>	<p>水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。 具体的には、平成30年度では高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。</p>

2		
重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1		
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：和歌山県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	汚水処理人口普及率の向上	汚水処理人口普及率の向上のため、下水道水洗化促進補助、下水道事業促進整備交付金、浄化槽設置整備事業による市町村に対する補助等を実施し、下水道や浄化槽等の整備を促進しているところ。今後も継続して市町村に対する補助等を実施し、汚水処理人口普及率の向上を行う。
2	水質関係事業所等監視指導	水質汚濁防止法に基づく特定事業場への立入を行い、事業場から公共用水域へ排出される排水が基準に適合するよう指導を行い、公共用水域において環境基準を達成できるよう努めている。
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1	地元ダイビングショップの協力によるオニヒトデ等の駆除	サンゴ群落の世界最北限でもある串本海域のサンゴの維持保護を目指し、地元ダイビングショップの協力でオニヒトデの駆除等を実施。串本町沿岸の地域資源であるサンゴを食害しているオニヒトデや巻貝の駆除を行い、サンゴの維持回復を図るため、平成12年度から毎年5月～7月中旬及び11月～3月に駆除活動を実施している。
2		
<b>重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組</b>		
1	地域主体のサンゴ礁保全対策の支援	田辺白浜エリアで、特定非営利活動法人が主体となり、サンゴ調査・保全活動（モニタリング）、サンゴマップづくり、サンゴ移植・調査活動、オニヒトデ駆除活動、海洋環境体験学習等を実施し、和歌山の沿岸海域など自然環境が抱える問題を把握、情報を発信し、保全活動を継続している。
2		
<b>その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）</b>		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：徳島県 竹ヶ島自然再生協議会

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1		
2		
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1	サンゴ群落保全に貢献するツーリズムの推進。「海洋自然博物館 マリンジャム」を通して、観光とレジャー施設として、地域住民だけでなく、観光客にも主体的に行ってもらおう体制を構築する。	左記ツーリズムを推進させるため、海中観光船の運行、シーカヤック、シュノーケリングを行っている。また、夏場に行われるサンゴの産卵を通し、稚サンゴの展示や、産卵シーン映像の作成を行っている。さらに、平成28年度は博物館内に小型の水族館施設を作り、サンゴ群落周辺の生態系の展示も取り入れ始めた。本年度は、上記活動をサンゴ礁学会にてポスター発表し、活動の普及に努めた。また、サンゴ群落生態系の観察会を町民向けに企画したが、悪天候にて中止、また、町外からの参加希望者が多く見受けられた。そのため、今後は徳島県内外を対象にしたエコツーリズムの取り入れを図る予定である。
2		
<b>重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組</b>		
1	普及啓発事業 地域社会におけるシンポジウムの主催と、自然再生協議会、竹ヶ島魅力化事業の設置	平成17年より設置された自然再生協議会で、町、漁協や学識者などと”エダミドリイシが健全に生き続けられる環境”を目標に有性生殖による種苗の作成などを行っている。また、平成28年度より、地域おこし協力隊による竹ヶ島魅力化事業を作成。町、漁協、学識者の間に入り、活動中。また、シンポジウムなどの開催も行っている。今後は、町民向けなどにボランティアなどを募り、体験型活動の取り入れ、竹ヶ島に存在する分校を利用した研究施設の島民向けの活性化も検討している。
2	人材育成事業 学識者におけるサンゴ学習教育と、有性生殖によるサンゴの移植活動	竹ヶ島海域公園内に育成するサンゴを守るために、平成16年より地元小学生により左記活動を実施している。しかし、サンゴの移植活動に至っては、町内小学校1校のみ実施となっているため、今後、小学校だけでなく、中学校、一般等の拡大を図ることを予定としている。
<b>その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）</b>		
1	サンゴ移植活動の拡大	今年から取り組みを拡大していくため、移植種苗の作成方法の模索、また、拡大のための広報活動を実施中。地域を取り入れた学習活動などにも従事していく予定である。
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：愛媛県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	該当なし	
重点課題2「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	該当なし	
重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	宇和海海域公園サンゴ保護対策の支援	<p>本県では、足摺宇和海国立公園内の宇和海海域公園において、サンゴ類に被害を与えるシロレイシガイダマシ類の発生が確認され、その食害が問題となっており、駆除を継続実施しなければ被害が拡大するおそれがあることから、宇和海海中資源保護対策協議会が実施するオニヒトデやシロレイシガイダマシ類の駆除やモニタリングに要する経費を補助している。(県事業として平成3年度から継続)</p> <p>加えて、足摺宇和海国立公園及び周辺海域において、より効果的な保全活動や持続可能な利用促進に資するため、足摺宇和海保全連絡協議会（事務局：環境省土佐清水自然保護官事務所及び公益財団法人黒潮生物研究所）に参画し、最も保全上の脅威であったオニヒトデ等のサンゴ食害生物の駆除事業の進捗状況やサンゴの被度の現況等について関係者間で情報を共有している。</p> <p>なお、協議会では、県が補助する宇和海海中資源保護対策事業・環境省のマリンワーカー事業・水産庁の水産多面的機能発揮対策事業の限られた予算を効果的に充当できるよう、前年度迄の駆除実績等を踏まえた傾向を分析し、駆除エリアを分担するなど、関係者間の連携を強化することで、駆除やモニタリングを効率的に実施している。さらに、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）、モニタリング方法の確立、教育利用等に関する検討も進めている。また、一部海域においては、オニヒトデの駆除数の低下が見られないことから、駆除作業の強化策や財源確保が課題となっている。</p>
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	該当なし	
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：高知県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗田節をつくるための森づくり（サンゴと森の救援隊）</li> <li>・森林整備・間伐（林野庁四万十森林管理署、高知県森づくり推進課、土佐清水市農林水産課）</li> <li>・土砂浚渫（高知県幡多土木事務所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者と林業者が荒廃した山林にウバメガシを植樹し有効に活用する森づくりの勉強会を実施する。</li> <li>・竜串地域上流域で災害に強い森づくりを進めるため、それぞれの団体が森林整備や間伐作業を行う。</li> <li>・河川からの土砂流出防止のための土砂の浚渫工事を実施する。</li> </ul>
2		
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オニヒトデ駆除ツアーのモニターツアーを実施（主催：竜串観光振興会、協力：環境省土佐清水自然保護管事務所、足摺海洋館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深刻化するオニヒトデ食害対策を行う担い手が不足する中、駆除をツアーメニューに組み込み、観光客ダイバーに実施してもらうことで、保全活動と観光振興を同時に進める取り組み。モニターツアーを実施し、参加者の意見を集約してツアーメニューの商品化を目指している。</li> <li>また、観光客にオニヒトデ食害等サンゴ礁の現状を情報発信することも目的としている。</li> </ul>
2		
<b>重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組</b>		
1	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンゴの産卵観察会（竜串観光振興会、黒潮生物研究所、足摺海洋館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般のダイバーと竜串湾内におけるサンゴに関するレクチャー及びサンゴの産卵を観察し、保全活動の啓発につなげている。</li> </ul>
2	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竜串スポットチェック勉強会（環境省、黒潮生物研究所他）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への普及啓発の一環として、市民参加型のサンゴモニタリングイベントを実施している。</li> <li>・地元学校でサンゴ礁保全に関する環境学習を実施し、地域のサンゴ礁への理解を深め、将来の保全活動の担い手づくりにつなげる。</li> </ul>
<b>その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）</b>		
1	オニヒトデの駆除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺海域では、最近10年間、食害生物であるオニヒトデが大発生し、オニヒトデ駆除対策を実施できていない箇所では、サンゴが消失してしまっている。現在、サンゴが保全できているエリアは限られており、今後それらのエリアにオニヒトデが集中しつづることが予想されることから、そうした海域において、環境省のMW事業や、水産庁の水産多面的機能発揮対策事業によるオニヒトデの駆除が実施されている。</li> <li>特に、竜串湾内においては、平成21年度以降減少傾向にあったオニヒトデ駆除数が、平成27年度から増加に転じており、平成29年度はさらに駆除数が増加した。駆除数の特に多いエリアでは、サンゴの消失が確認されているとともに、核心部である海域公園地区での駆除数も増加してきており、オニヒトデの食害を抑えられていない状況である。</li> </ul>
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：長崎県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	生活排水対策重点地域活動促進事業補助金の交付	重点地域を有する市町が行う生活排水対策の啓発事業等に対して県が1 / 2の補助を行った。
2	特定施設、指定施設に対し立入検査を実施し、届出内容の確認及び維持管理状況等の確認を行った。排水基準適用の工場・事業場に対しては水質検査を実施した。	水質汚濁防止法や未来環境条例に基づき、立入検査を行い、法・条例に違反し又は違反する恐れのある場合は速やかな改善を指導し水環境の保全を図った。
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1		
2		
<b>重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組</b>		
1		
2		
<b>その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）</b>		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：宮崎県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p><b>エコツーリズム推進協議会の取組</b>                      日南海岸に接する串間市では、国の交付金を活用して「串間エコツーリズム推進協議会」を設立し、市内の豊富な自然観光資源を保全しながら活用するなど、持続可能な形で後世に伝えていく取組を行っている。</p>	<p>串間エコツーリズム推進全体構想において、「都井岬沖の九州最大級のテーブルサンゴ群集」や「築島のサンゴ群集」がエコツーリズムの対象となる自然観光資源に定められており、同構想の中で定められたエコツーリズムのルールに則り、自然環境の保護に留意しながら、観光資源として活用している。                      今年度は10月に「築島のサンゴ群集」において、地元の小中学生を対象にスノーケリングによるサンゴ観察を実施した。また、宮崎大学の教員による講話を行い、地元の海にサンゴが多く生息していることや、サンゴ保全の重要性について理解を深めることができた。昼食にはサンゴの海の恵みである地元獲れの魚介を使用した海鮮汁を提供し、サンゴの海の恵みを五感で体験することができた。</p>
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p><b>つながりの構築に向けた取組①</b>                      環境省の生物多様性保全推進交付金による支援をいただき、県や関係市、ダイビング協会等で組織した「日南海岸サンゴ群集保全協議会」が、県民へのサンゴ保全と生物多様性を広く周知するためのイベント等を実施している。</p>	<p>日南海岸のサンゴの存在やサンゴ生態系及び生物多様性の重要性を広く周知するためには、地元の子供たちへの環境教育学習の実施が必要と考えている。                      このため、上記のとおり串間エコツーリズム推進協議会とタイアップし、スノーケリングによるサンゴ観察を実施した。</p>
2	<p><b>つながりの構築に向けた取組②</b>                      上記1の「日南海岸サンゴ群集保全協議会」は、行政機関や大学関係者のほか、観光及び漁業の関係者が構成員であるため、日南海岸地域のサンゴ保全について協議し意思疎通を図ることができる場となっている。</p>	<p>日南海岸の美しいサンゴや豊かな生態系を維持していくためには、地元の人々がサンゴ群集を漁業や観光の重要な資源であることを認識した上で、それらを活かした観光事業や環境教育などの各種取組を推進していく必要があると考えている。そのためには、当該支援事業終了後も継続して当協議会が運営できる環境づくりを行うことは重要であり、今後の課題であると考えている。</p>
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	<p><b>日南海岸のサンゴ群集の健全度監視及びサンゴ食害生物の駆除</b></p>	<p>上述の「日南海岸サンゴ群集保全協議会」において、宮崎大学や地元ダイバーと協力したサンゴ健全度監視のための海域調査及び、オニヒトデやヒメシロレイシガイダマシの駆除を実施している。今後の課題として、サンゴ食害生物駆除の一層の効率化および、今後の活動継続のための体制構築・強化が挙げられる。</p>
2		



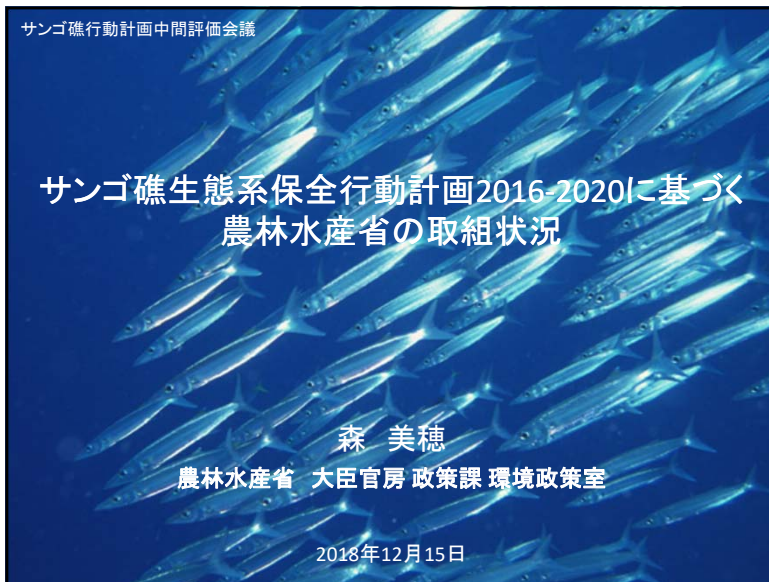
サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：鹿児島県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
<b>重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組</b>		
1	<p>開発現場等からの赤土流出防止対策（関係各課）</p> <p>赤土等流出防止対策について、「奄美地域赤土等流出防止対策協議会」等を設置し、関係市町村や団体等とともに連携を取りながら対策を進めている。</p> <p>なお、平成29年度より啓発活動の一環として、事業者団体や個人を対象に優良事例表彰が新設された。</p>	<p>(1) 奄美地域赤土等流出防止対策協議会の開催 奄美地域の関係機関（国，県，市町村，関係団体）が一体となって赤土等流出防止について協議し、必要な対策を積極的に推進するため、奄美地域赤土等流出防止対策協議会を運営する。</p> <p>(2) 広報啓発 ①赤土等流出防止対策の文書依頼 ②地元新聞社への広告掲載 ③啓発グッズの作成 ④ラジオCMによる啓発 ⑤普及だよりによる管内市町村への赤土等流出防止対策推進啓発 ⑥梅雨時期の広報依頼</p>
2	<p>汚水処理人口普及率の向上（都市計画課）</p> <p>鹿児島県では、事業主体である市町村と連携しながら、地域の実情に応じた効率的かつ適正な生活排水処理施設の整備を進めている。</p>	<p>鹿児島県は、地理的な条件として人口散在地域が多いことなどから、生活排水処理施設の整備状況は地域差が大きいですが、地域の特性を踏まえ、下水道、農業・漁業集落排水施設、浄化槽など生活排水処理施設の整備を効率的・計画的に進めている。なお、奄美市、和泊町、知名町においては、全国の汚水処理人口普及率90.9%を大きく上回っている。</p> <p>（鹿児島県の汚水処理人口普及率（H29末）：80.1%）</p>
<b>重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組</b>		
1	<p>サンゴ礁調査研究基盤整備支援事業（自然保護課）</p> <p>世界でも希少なサンゴ礁研究の適地である喜界島におけるサンゴ礁の調査研究を支援するため、研究施設・設備等の整備の支援を行っている。この支援により、研究の促進や奄美群島のサンゴ礁の魅力発信、研究者や観光客など来訪者の増加による地域の活性化などが期待される。</p>	<p>平成28年度～平成29年度に喜界島サンゴ礁科学研究所の宿泊施設兼研究展示棟の整備及びサンゴ飼育施設整備にかかる費用の助成を行った。これらの施設は、研究者の宿泊施設として利用されるほか、観光や環境学習、地域とのコミュニケーションの場などの拠点として活用が期待される。</p>
2	<p>喜界島まるごとサンゴ礁ミュージアム事業（共生・協働推進課）</p> <p>平成29年度NPO共生・協働・かごしま推進事業を活用し、世界有数のサンゴ礁地形を有する喜界島において、地域住民参加型ミュージアムを創設するもの。</p>	<p>(1) 資料収集調査および展示 地域住民および研究者によって撮影された化石サンゴ礁の地形や生物化石の写真とその解説及び歴史的・文化的側面から見た喜界島の人々とサンゴの関わりについて、情報共有できる資料の展示を実施している。</p> <p>(2) サイエンスカフェの実施 喜界島のサンゴ研究に取り組む研究者を講師として、地域住民向けの講演会およびそれに関連したフィールドツアーを実施する。</p> <p>【実施団体】 喜界島サンゴ礁科学研究所および地域住民</p>

重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組

1	<p>サンゴ礁保全対策事業（自然保護課，奄美群島内12市町村）</p> <p>サンゴ礁の現況を把握するモニタリング，県民に対するサンゴ礁保全活動の普及啓発，サンゴ食害生物除去などの対策を実施する団体を支援する。（奄美群島成長戦略推進交付金事業）</p>	<p>奄美群島では，全市町村で構成する「奄美群島サンゴ礁保全対策協議会」を設立し，平成16年度から対象海域を奄美群島全域に拡大し，重点海域においてオニヒトデの駆除を行うとともに，平成17年度からはサンゴの生育状況等のモニタリング調査を継続している。</p> <p>（活動内容） モニタリング調査，モニタリング講習会，オニヒトデ駆除，ホームページの管理運営，シンポジウムの開催など</p>
2	<p>水産多面的機能発揮対策事業（水産振興課）</p> <p>漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援する。</p>	<p>枕崎市や指宿市などにおいて，水産多面的機能発揮対策事業を活用し，多様な生物の生息・生活の場となっているサンゴ礁を保全するため，オニヒトデの駆除を行い，藻場の保全を行っている。</p>
<p>その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）</p>		
1		
2		



### サンゴ礁生態系保全計画2016-2020に基づく農林水産省の取組

農林水産業は自然に働きかけ、その恵みを楽しむ生産活動です。

農林水産省は、生物多様性の保全を重視した農林水産業を推進するための指針として「農林水産省生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の保全に資する施策の実施に取り組んできました。

また、サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020に参画し、以下の活動に取り組んでいます。

**7-1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組**

- ◆ 農地からの流出対策 水質保全対策事業（耕土流出防止型）  
多面的機能支払交付金
- ◆ 生活排水等の処理 農業集落排水事業

**7-3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組**

- ◆ 地域主体のサンゴ礁保全対策の支援 水産多面的機能発揮対策事業

1

### 重点課題1. 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組

(1) 水質保全対策事業(耕土流出防止型)

○ 侵食を受けやすい特殊土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止するために、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護等を実施する事業。

平成30年度は、沖縄県で17地区、鹿児島県で3地区実施。

水質保全対策事業（耕土流出防止型）

① 勾配抑制

② グリーンベルト

③ 畦畔工

④ 土砂溜枿

⑤ 法面保護

⑥ 沈砂池

⑦ 排水路

⑧ 路面保護

2

### (2) 多面的機能支払交付金

地域共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源(農地、水路、農道等)の質的向上を図る活動を支援。(対象地域は全国)

平成29年度は、鹿児島県の4市町16組織及び沖縄県の16市町村26組織において実施。

○ 農地維持支払

【対象活動】

- ・ 農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の地域資源の基礎的保全活動
- ・ 農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成 等

農地法面の草刈り    水路の泥上げ    ため池の草刈り    農道の路面維持

○ 資源向上支払

【対象活動】

- ・ 地域資源の質的向上を図る共同活動  
(水路、農道、ため池の軽微な補修、農村環境保全活動の幅広い展開等)
- ・ 施設の長寿命化のための活動

水路のひび割れ補修    農道の窪みの補修    植栽活動    ため池の外來種駆除

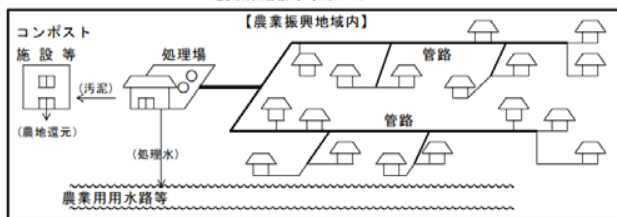
3

### (3) 農業集落排水事業

生活排水等による水産動植物の生育環境の悪化に対する、集落排水施設などの整備を通じた陸上からの水質負荷低減の取組み。

平成29年度までに全国で約5,000施設が供用されており、平成29年度は全国約220箇所所未整備地域の整備や老朽化施設の更新整備を実施。

農業集落排水事業のイメージ



4

### 重点課題3

#### 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組

#### 水産多面的機能発揮対策事業

漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援。

平成30年度は、高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等において実施。

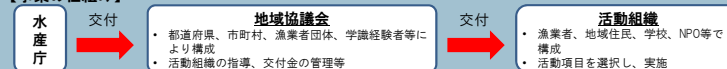
下記内容について支援が可能

サンゴ礁の保全	サンゴの種苗生産
	サンゴの移植
	食害生物の除去
	保護区域の設定
	浮遊・堆積物の除去
	その他特認活動*
モニタリング	
上記とあわせて実施する教育・学習の取組	



\*県知事の特認を受ければ支援が可能。

#### 【事業の仕組み】



5

## SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

### SDGs（持続可能な開発目標）

- ・ 2015年の国連サミットで決定された2016年から2030年までの国際目標
- ・ 17のゴール・169のターゲットから構成



環境に関するゴールの達成は全てのゴールの達成の基礎であり、農林水産業が果たせる役割は大きい。



生物多様性を健全に維持することが全てのベース

出典：Stockholm Resilience Centre (illustrated by Johan Rockstrom and Pavan Sukhdev, 2016)に加筆  
(<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>)

6